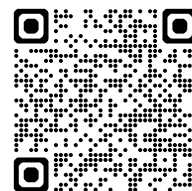
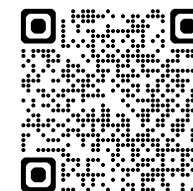


「家畜改良増殖目標」及び 「鶏の改良増殖目標」(令和7年4月策定) のポイントについて

令和7年4月
農林水産省畜産局畜産振興課



「家畜改良増殖目標」本文はこちら



「鶏の改良増殖目標」本文はこちら

改良増殖目標とは

■家畜の改良増殖を行う意義

- 家畜の改良増殖は、**家畜の生産性の向上を図るため**、乳量、肉量、肉質等の**遺伝的能力の高い家畜を作出**して、**より能力の高い家畜を増殖**させていこうとするものであり、その成果は、（畜産物の）生産性の向上を通じて**畜産の振興や農業経営の改善**、ひいては**国民食料の安定的供給に資する**ものである。

（出典：家畜改良増殖法の解説）

■新たな改良増殖目標（10年後※）を定めるに当たって

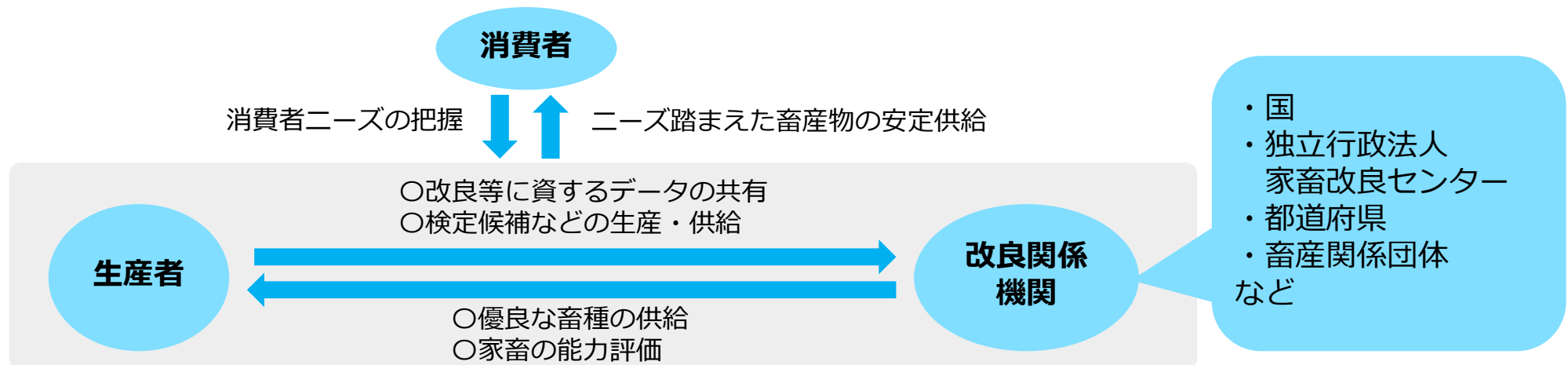
※鶏は他の畜種に比べライフサイクルが短く改良の効果が現れるスピードが速いことから、目標年度は他の畜種の10年後とは異なり、5年後。

新たな家畜改良増殖目標の策定にあたっては、**これまでの改良の方向性を基本**としつつ、

- 畜産農家の高齢化や後継者不足の進展、飼料等の資材コストの高止まり等により、**省力的・効率的な飼養管理の下でも高い生産性を発揮できる家畜**が求められている。
 - 国産畜産物の国内外での需要を一層拡大するため、**国内の多様な消費者ニーズや輸出需要に対応した畜産物生産のための基盤強化**を図る必要がある。
- などの情勢を踏まえ策定。

■改良増殖を推進する連携体制

- 改良関係機関と生産者が協力し、消費者ニーズを踏まえながら改良増殖を推進することが重要



家畜及び鶏の改良増殖目標のうち**改良目標**のポイント

乳用牛

- 長命連産性の向上や需要に応じた生乳生産のため、疾病抵抗性の評価を開始するとともに、バランス良く乳量・乳成分を改良。
- 暑熱耐性の改良の推進、飼料利用性等の導入などによる日本の飼養環境に適した改良を推進。
- 極端な大型化の抑制、搾乳ロボットへの適合性が高い牛へ改良。

肉用牛

※目標年度は策定時の10年後の令和17年度、鶏は5年後の令和12年度。

- 多様な消費者ニーズに対応するため、オレイン酸等の食味の向上に重点を置いた改良や研究等を推進。
- 食味、繁殖性、飼料利用性等、新たな改良形質に着目した改良の推進により、遺伝的多様性を確保。
- 肥育形態の1つとして、適度な脂肪交雑で、生産コストの低減等が期待できる短期肥育・早期出荷を推進。

豚

- 肢蹄に関する評価指標の改良現場での活用の推進。
- 生産コスト低減を図るため、1頭当たり育成頭数の改良を推進。
- 多様な消費者ニーズに対応するため、ロース芯への脂肪交雑を高める等により食味の向上を図り、海外産豚肉との差別化を推進。

馬

- 生産基盤強化のため、優良な種雄馬及び繁殖雌馬の確保と適切な利用に加え、家畜人工授精・受精卵移植技術の改善、理解醸成、普及を推進。

鶏

- 卵用鶏については、長期にわたり高い産卵性を維持する改良を推進。
- 肉用鶏については、生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。
- 国産鶏種（地鶏等）については、特色ある品質を保持しつつ、生産コストの低減を推進。

めん羊・山羊

- 優良な種畜を確保するため、家畜人工授精技術等を利用した能力の高い種畜の生産及びその供給を推進。
- 生産性等の改良データの収集体制の検討・構築を推進。

乳用牛の改良増殖目標のポイント

現状と課題

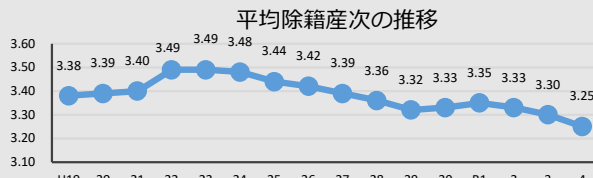
- 新型コロナウイルスの感染拡大以降、**特に脱脂粉乳需要の減少**から生乳需給は緩和。
- 乳用牛 1 頭当たりの乳量は年々増加している一方、**供用期間は短縮し、受胎率も低下傾向**。
- **酪農の労働時間は長く**、高齢化の進展等により**労働力不足**が顕在化。
- **温暖化等の環境の変化への適応**や、**アニマルウェルフェア (AW)** に配慮した**飼養管理**などの対応が必要。

主な方向性

- 需要に応じた生乳生産や長命連産性の向上のため、バランス良く乳量・乳成分を改良するとともに疾病抵抗性の評価を開始。
- 極端な大型化の抑制、搾乳ロボットへの適合性が高い牛へ改良。
- 暑熱耐性の改良の推進、飼料利用性等の導入などによる日本の飼養環境に適した改良を推進。

バランス良い泌乳形質の改良と長命連産性の向上

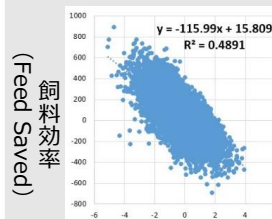
- ・ 繁殖性等の他の形質とのバランスを確保した上で乳量の改良を推進する。
- ・ 将来的な需要の変化に対応するため、NTP※1のうち乳脂量の割合を見直す。
- ・ 繁殖性や耐久性に重点を置いた改良や疾病抵抗性の評価による長命連産性の向上を推進する。



※1：産乳・耐久性・疾病・繁殖などの要素を加味した、種雄牛を選抜するための総合指数。

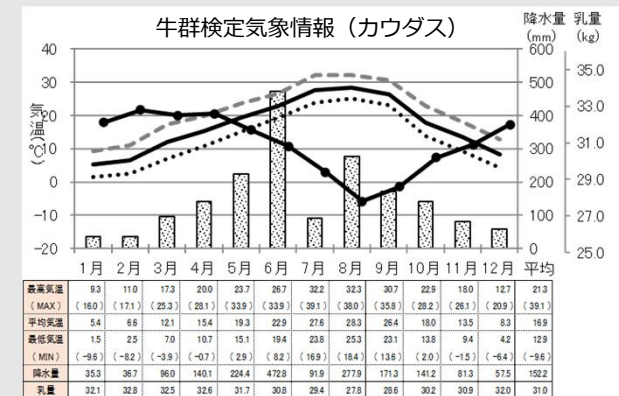
大型化の抑制 搾乳ロボット適合性

- ・ 極端な大型化を抑制するため、適正な大きさについて検証する。
- ・ 搾乳ロボットへの適合性を高められるよう、種雄牛に係るロボット適合範囲の情報提供を推進する。



暑熱耐性や飼料利用性等の日本の飼養環境に適した改良

- ・ 暑熱耐性などの評価方法の改善を検討するとともに、飼料利用性等の新たな評価を検討する。



牛群検定成績等の提供方法等の工夫

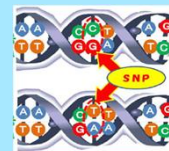
生産者や地域の指導機関等が活用しやすいよう、牛群検定成績等の情報提供の方法等を工夫する。



改良速度の加速化とゲノミック評価の理解醸成

ゲノミック評価の信頼性確保やヤングサイア※2の利用促進により改良速度を加速化する。

※2：ゲノミック評価により能力が高いと推定され、娘牛の成績を持たない若齢の種雄牛。



AWに配慮した飼養管理

AWに配慮した飼養管理は、長命連産性の向上にも貢献。牛個体ごとの能力の把握と適切な飼養管理を促進する。



肉用牛の改良増殖目標のポイント

現状と課題

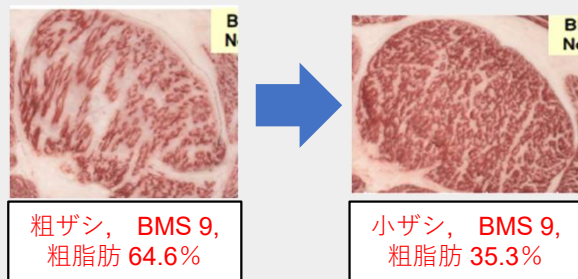
- 生産現場の多くでは、**脂肪交雑を重視した和牛生産**となっている中で、
 - ① **消費者ニーズは多様化**。
 - ② 和牛全体での**近交係数が上昇し、遺伝的多様性の喪失が懸念**。
- 飼料価格の高止まり等により**生産コストが増加**する一方、牛肉需要の減退により**枝肉価格は低迷**しており、**より効率的な肉用牛生産が必要**。

主な方向性

- 多様な消費者ニーズに対応するため、オレイン酸等の食味の向上に重点を置いた改良や研究等を推進。
- 食味、繁殖性、飼料利用性等、新たな改良形質に着目した改良の推進により、遺伝的多様性を確保。
- 肥育形態の1つとして、適度な脂肪交雑で、生産コストの低減等が期待できる短期肥育・早期出荷を推進。

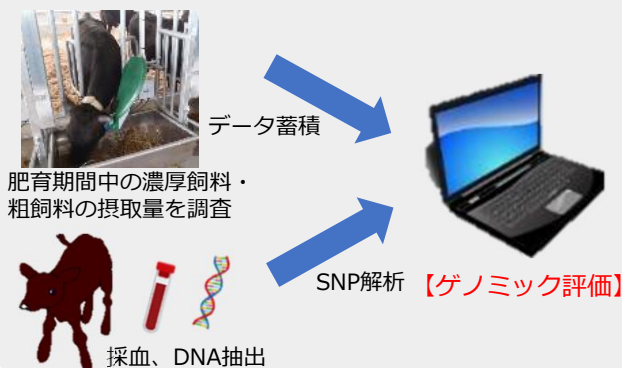
食味の向上に重点を置いた種畜の選抜・利用

- ・脂肪の質を始めとする食味の向上に重点を置いた種雄牛及び繁殖雌牛の選抜・利用を推進する。
- ・牛肉の食味や脂肪交雑の形状に関する指標の研究を進め、改良の指標として取り入れるための評価手法を検討する。



飼料利用性の指標化・実用化

- ・飼料利用性に関する指標化を検討する。
- ・蓄積されたデータを基に遺伝的能力評価に着手し、種畜の選抜手法の実用化を推進する。



短期肥育・早期出荷の推進

- ・短期肥育・早期出荷の普及に向けた実証に取り組み、生産現場への定着を推進する。
- ・早期出荷牛肉に関するデータ収集・分析を行い、流通及び消費者サイドの認知度向上及び理解醸成を促進する。

生産～販売までの一体的な取組の推進



分娩間隔の短縮、初産月齢の適正化

繁殖能力に優れ、生涯生産性の高い種畜を選抜することによる分娩間隔の短縮や初産月齢の適正化を推進する。

新たな形質に係るデータの収集と活用、遺伝的多様性の確保

食味、飼料利用性、繁殖性などの新たな改良形質に着目したゲノミック評価や種雄牛造成などを推進し、遺伝的多様性の確保を図る。

アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理

肉用牛が本来持つ繁殖性や増体性などの能力を十分発揮させるため、アニマルウェルフェアに関する指針の周知及び普及を推進する。 4

豚の改良増殖目標のポイント

現状と課題

- 家畜伝染性疾病による遺伝資源喪失リスクが高まっており、食料の安全保障の観点からも**国内で遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持**していくことが重要。
- **産肉能力**については、我が国で求められているニーズに対応しつつ食味も含めた**肉質の更なる改良**が必要。
- **コスト低減に資する改良や衛生管理の取組**を推進する必要。

主な方向性

- 消費者ニーズに対応するため、脂肪交雑の増進等による食味の向上を図り、海外産豚肉との差別化を推進。
- 生産コスト低減を図るため、1腹当たり育成頭数の改良を推進。
- 能力の発現を最大化させるため、肢蹄に関する評価指標の活用を推進。

消費者ニーズに対応する 産肉能力の改良

- ・ 国産豚肉全体の食味の向上を図るため、デュロック種については、ロース芯への脂肪交雑の増進等により食味の向上を図る。
- ・ 生産コストの低減を図る観点から、各品種とも、1日平均増体量の向上により、肥育豚の出荷日齢の短縮を図る。



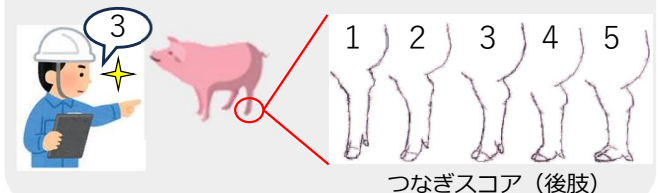
生産コスト低減に資する 繁殖能力の改良

- ・ 純粋種豚の1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を強化することで、肥育素豚生産用母豚の繁殖能力をさらに高める。
- ・ 繁殖能力の改良を効率的に進めるため、国産純粋種豚改良協議会等の協力体制を強化する。また、種豚農家における育種価情報の適切な活用を推進する。



能力の発現を最大化させる 体型の改良

- ・ 強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称がとれた体型への改良を図る。
- ・ 肢蹄に関する評価指標の現場での実践に向け、判定の均一化・精度向上を図る。
- ・ その他、体型に関する簡易な評価が可能な改良形質について引き続き検討する。



純粋種豚の維持・確保

純粋種の多様性を維持しつつ、能力向上と優良な改良素材の活用を推進するとともに、改良に必要なデータを収集・分析できる体制の構築を検討する。

伝染性疾病への対策

慢性疾病も含む伝染性疾病の発生予防・まん延防止のため、飼養衛生管理基準の遵守の徹底やオールイン・オールアウトの導入等を推進する。

アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理

豚が本来持つ能力を十分発揮させるため、アニマルウェルフェアに関する指針の周知及び普及を推進する。

馬の改良増殖目標のポイント

現状と課題

- 重種馬：生産者の高齢化や担い手不足等により生産基盤の弱体化が進行しているため、担い手確保とともに改良面での基盤強化が必要。
- 軽種馬：内国産馬の能力向上が図られている一方、利用する血統が偏重。
- 乗用馬：競技等の利用に加え、ホースセラピー等利活用の幅を広げる必要。

主な方向性

- 生産基盤強化のため、用途に応じた①優良な種雄馬及び繁殖雌馬の確保と適切な利用、②担い手や生産を支える技術者等の確保及び技術の向上等の推進、③家畜人工授精技術等の改善とその活用に向けた理解醸成により普及を推進。
- 更なる利活用の幅を広げるため、多様な利活用に係る情報の収集・共有を推進。

重種馬

- ・ 近交係数の上昇に留意した上で、強健性、増体性及び飼料利用性の向上に努める。
- ・ 優良な種雄馬及び繁殖雌馬の維持、確保及び適切な利用に努める。
- ・ 繁殖雌馬において、受胎率、生産率等の繁殖能力の向上を図る。



軽種馬（競走用馬）

- ・ 国際的に通用する、強靱でスピードと持久力に優れた競走能力の高いものとする。
- ・ 血統の多様性に配慮し、血統情報等を活用した交配に努める。



乗用馬・日本在来馬

- ・ 乗用馬は、温順で乗りやすいものとする。競技用は、運動性に富み、飛越能力、持久力等に優れたものとする。
- ・ 日本在来馬は、各品種の特性を踏まえた利活用を推進する。また、家畜人工授精技術等も活用し、希少性に配慮した品種の保存に努める。



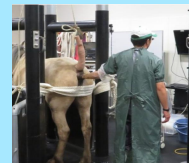
技術研修会等の開催

技術研修会等の開催を通じて、担い手や馬に関する技術者及び指導者等を確保するとともに、繁殖技術の改善・普及を図る。



繁殖管理技術の向上

繁殖雌馬においては、各個体の状態等に配慮した上で、発情・授精適期の把握等を徹底し、空胎期間の短縮を図る。



アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理

馬が本来持つ能力を十分に発揮させるため、アニマルウェルフェアに関する指針の周知及び普及を推進する。

めん羊・山羊の改良増殖目標のポイント

現状と課題

- 国産羊肉・山羊肉の需要の高まりがみられる中、国内の限られた生産基盤において、種畜を確保し飼養頭数を増加させる必要。
- 多様な利活用が図られる中、技術者・指導者の不足、飼養管理・衛生管理技術の向上に向けた情報提供等が課題。
- 山羊乳を利用したチーズ等の乳製品加工・販売に向けて、乳量の向上等が必要。

主な方向性

- 生産性に優れた種畜を選抜するため、生産性等の改良データの収集体制の検討・構築を推進。
- 優良な種畜を確保するため、家畜人工授精技術等を利用した能力の高い種畜の生産及びその供給を推進。

産肉性・泌乳性に優れた種畜の生産

- ・優良な種畜の選抜、育成、供給に向けて、関係者との連携の下、生産性に関連するデータの収集、分析する体制の構築に努める。

能力評価ソフト



家畜人工授精技術の活用

- ・研修会等の開催を通じた家畜人工授精技術に関する理解醸成と、獣医師等の技術者の育成及び技術の向上を図る。
- ・優良な種畜の精液の活用に努める。



生産性の向上

- ・確実な発情発見、人工哺乳技術を活用した子羊、子山羊の損耗防止や分娩前後の母羊、母山羊の適正な栄養管理等の実施を図る。
- ・疾病の発生予防、まん延防止のため、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を図る。



多様な利活用の推進

採食特性を生かした耕作放棄地等の景観維持や、ふれあい教育等の多様な利活用に関する価値・魅力の発信を図るとともに、留意すべき法制度等の周知・徹底を図る。



適切な飼養管理

めん羊・山羊が本来持つ能力を十分に発揮させるため、暑熱等の環境ストレスの軽減や、増体性に影響を及ぼす寄生虫への対策等に努める。

鶏の改良増殖目標のポイント

現状と課題

- 多様な消費者ニーズに対応した鶏卵・鶏肉の安定供給と生産コストの低減等に資するため、国産鶏種の改良・増殖等に引き続き取り組むことが必要。
- 輸入規制等のリスクに備え、国内育種資源の多様性及び選択枝の確保並びに種鶏の安定供給が重要。

主な方向性

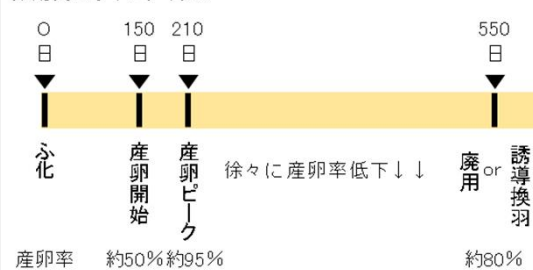
- 卵用鶏：長期にわたり高い産卵性を維持する改良を推進。
- 肉用鶏：生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。
- 国産鶏種（地鶏等）：特色ある品質を保持しつつ、生産コストの低減を推進。

【能力に関する改良目標】

卵用鶏

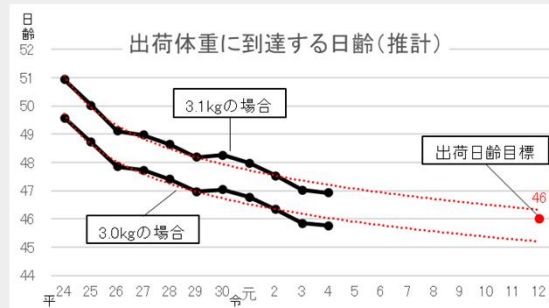
- ・ 長期にわたり高い産卵性を維持する改良を推進する。
- ・ 日産卵量に留意しながら、飼料要求率の維持・向上に努める。

卵用鶏のライフサイクル



肉用鶏（ブロイラー）

- ・ 増体の低下につながらないように留意しながら、飼料要求率の改善に努める。
- ・ 飼料要求率の改善と増体性の向上を踏まえた、適正な日齢での出荷を推進する。



国産鶏種（地鶏等）

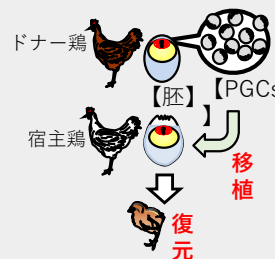
- ・ 特色ある品質を保持しつつ、合理的な価格水準で供給が図られるよう、生産コストの低減を推進する。
- ・ 安定的な雛の生産・供給を図りながら、消費者等の認知度を高める取組を推進する。



【能力向上に資する取組】

- ① 遺伝資源の保存や改良増殖に貢献する始原生殖細胞（PGCs※）の保存等の技術習得及び普及体制について、関係者間で連携体制の構築を図る。

※ 受精卵の胚に出現する、将来精子や卵子になる細胞（Primordial Germ Cells）。この細胞を保存し利用することで、疾病等により途絶えた遺伝資源の再生や近交係数の上昇を抑制する改良体制の構築に資することが可能。



- ② （独）家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関が連携し、国産鶏種の増体性や繁殖性の向上に努め、安定供給を図る。
- ③ 国産鶏種の肉質等の特徴を保持しつつ、アニマルウェルフェアの向上等を図るため、喧噪性を低減させるための飼養管理手法や改良手法について検討する。

家畜及び鶏の改良増殖目標のうち増殖目標のポイント

乳用牛

○我が国の乳用牛改良基盤を維持するとともに、牛乳・乳製品の安定的な供給を確保し、牛乳・乳製品の需要動向に即した生産を行うことを旨として頭数目標を設定。

総頭数 127万頭（現在133.5万頭）
うち2歳以上の雌牛頭数 86万頭（現在 89万頭）

豚

○豚肉の需給動向に即した生産を行うことを旨とした飼養頭数を設定。

総頭数 790万頭（現在 880万頭）

めん羊

○種雄羊及び繁殖雌羊を含め、需給動向に応じた頭数となるよう努める。

山羊

○乳用、肉用のほか、多様な利活用に対するそれぞれの関心の高まりを踏まえ、需要動向に応じた頭数となるよう努める。

肉用牛

※目標年度は策定時の10年後の令和17年度、鶏は5年後の令和12年度。

○牛肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養頭数目標を設定。特に、希少血統の維持に留意しつつ遺伝的能力評価に基づく優良な繁殖雌牛の増頭を図り、足元の改良基盤を充実させた上で、今後の需給状況に合わせた和子牛生産を推進。

総頭数 290万頭（現在 268万頭）
うち肉専用種 219万頭（現在 189万頭）
うち乳用種・交雑種 71万頭（現在 79万頭）

馬

○利用目的ごとの需給動向に応じた頭数となるよう努める。

鶏

○鶏卵・鶏肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数の目標を設定。

卵用鶏 172百万羽（現在172百万羽）
肉用鶏 141百万羽（現在141百万羽）

○また、多様化する消費者のニーズに応え、特色ある鶏の増殖に向けた種鶏の羽数が十分に確保されるよう努める。